

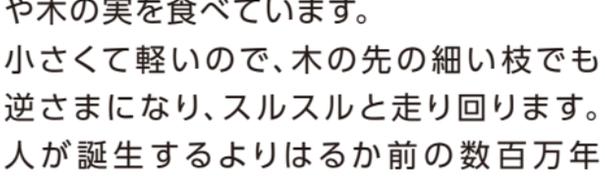


白山の森の動物たち

白山では豊かな自然をすみかにして、多くの動物たちが生息しています。普段、深い森の中でひっそりと暮らしている動物たちも時には私たち人間の前に姿を見せてくれる時があります。

愛らしい小さな小さな動物

「生きた化石」ヤマネ



ヤマネはネズミ目ヤマネ科のほ乳類です。体長は約8cmで体重18gほどしかありません。真ん丸の体の背中に1本の黒い線、フサフサのしっぽがちょこんと出ています。ヤマネは森の中にすんでいて、森の中で昆虫や木の実を食べています。

小さくて軽いので、木の先の細い枝でも逆さまになり、スルスルと走り回ります。人が誕生するよりはるか前の数百万年前からすんでいるため、生きた化石とも呼ばれています。白山でもなかなか見かけることはできませんが、山小屋などに時々、遊びに来ます。もしかしたら会えるかもしれません。

「山の神の使い」オコジョ



オコジョはネコ目イタチ科のほ乳類です。体長も20cmほどしかなく、丸顔に丸い小さな耳、まん丸の大きな瞳が何とも愛らしい姿です。でも、オコジョは肉食でとっても気性が荒いのです。ネズミなどを捕まえるほか、自分の体よりも大きいウサギや鳥を食べることもあります。

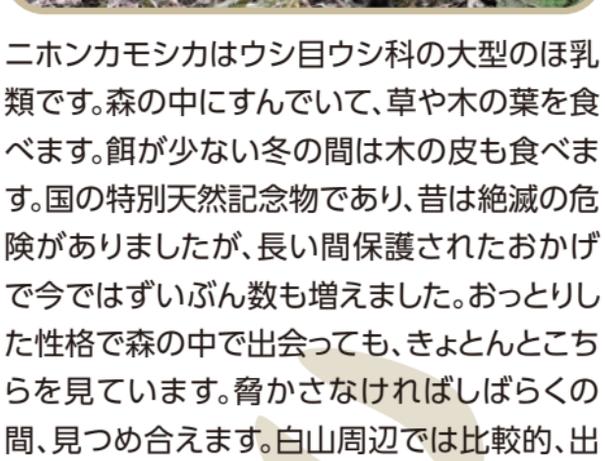
昔からオコジョは「山の神様の使い」として、森に暮らす信心深い人々に恐れ、あがめられてきました。オコジョは見かけても、とにかくじっとしていません。登山の途中や山小屋付近で時々、出会えます。小さな体とかわいらしい表情に思わずにっこり。

※オコジョの足跡

※写真:「ヤマネ」と「オコジョ」乾 靖氏 提供

森を駆け回る大型の哺乳類

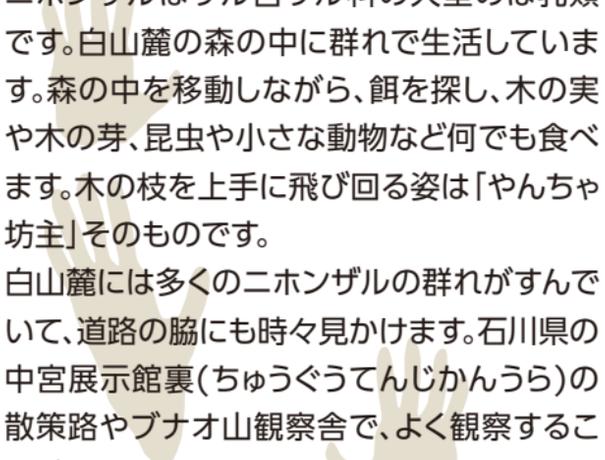
「森の主」ツキノワグマ



ツキノワグマはネコ目クマ科の大型のほ乳類です。白山にすんでいる動物の中でも最も大きく、まさに「森の主」です。木や草の芽、昆虫、ドングリなどの木の实など、いろいろなものを食べます。木登りも上手で、木の上でどっかり腰を下ろして、ドングリを食べます。めったに人を襲うことはありませんが、もし出会ったら、大きな声を出さず、ゆっくりとその場を離れましょう。特に子グマを見かけたときは、母グマが近くにいて警戒しているのですぐに立ち去ってください。のんびりしているように見えますが、走ると100mを10秒足らずで移動できます。

※ツキノワグマの足跡

「おっとり系」ニホンカモシカ



ニホンカモシカはウシ目ウシ科の大型のほ乳類です。森の中にすんでいて、草や木の葉を食べます。餌が少ない冬の間は木の皮も食べます。国の特別天然記念物であり、昔は絶滅の危険がありましたが、長い間保護されたおかげで今ではずいぶん数も増えました。おっとりした性格で森の中で出会っても、きょとんとこちらを見ています。脅かさなければしばらくの間、見つめ合えます。白山周辺では比較的、出会いやすい動物の一つです。

※ニホンカモシカの足跡

「森のやんちゃ坊主」ニホンザル

ニホンザルはサル目サル科の大型のほ乳類です。白山麓の森の中に群れで生活しています。森の中を移動しながら、餌を探し、木の実や木の芽、昆虫や小さな動物など何でも食べます。木の枝を上手に飛び回る姿は「やんちゃ坊主」そのものです。

白山麓には多くのニホンザルの群れがすんでいて、道路の脇にも時々見かけます。石川県の中宮展示館裏(ちゅうぐうてんじかんうら)の散策路やブナオ山観察舎で、よく観察することができます。

※ニホンザルの足跡

環境省中部地方環境事務所・環白山保護利用管理協会